

SKY コーナー

「2021年度 安全推進大会& SKYフォーラム」開催

「私たちは過去の事故を教訓に類似事故を絶対に起こしません」ヨシ!

情報通信エンジニアリング協会 九州支部

1. はじめに

2022年2月14日（月）から2022年2月27日（日）まで、NTT西日本九州カンパニーと一般社団法人情報通信エンジニアリング協会九州支部との共催により「2021年度 安全推進大会&SKYフォーラム」が開催されました。

今回も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、例年の集合による開催から前年同様リモート開催方式とし、大会動画をWEB配信することで参加各社の事務所や自宅からも視聴できる仕組みを構築しました。

今回も新型コロナウイルス感染拡大

防止の観点より、例年の集合による開催から前年同様リモート開催方式とし、大会動画をWEB配信することで参加各社の事務所や自宅からも視聴できる仕組みを構築しました。

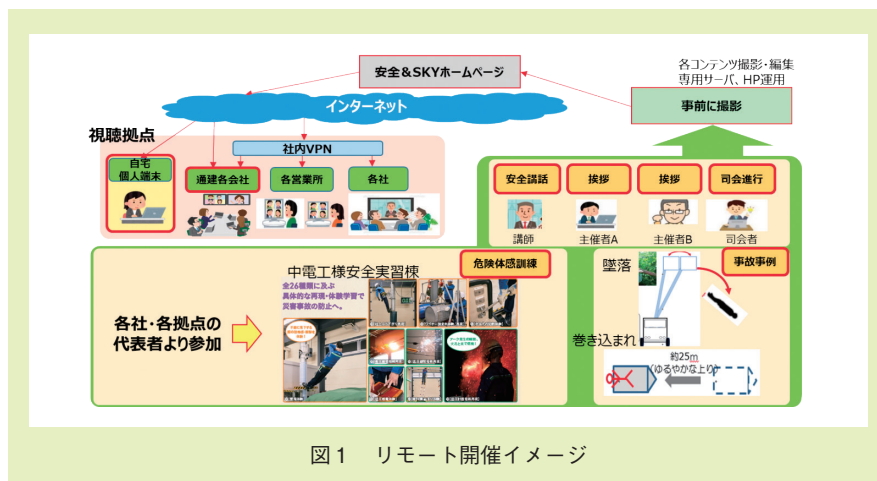


図1 リモート開催イメージ

- 開催日時：2022年2月14日（月）13：30～2月27日（日）20：00まで
- 参加者：NTT九州・沖縄エリアグループ各社 及び 通信建設会社各社

	項目	実施概要
2/14(月) 13:30 ～ 2/27(日) 20:00	10分程度	開会式 オリエンテーション NTT西日本 梶原九州支店長 ご挨拶 情報通信エンジニアリング協会 熊本九州支部長 ご挨拶
	90分程度	安全講話 社外の専門的知識者による安全講演を聴講することにより、事故防止への意識を向上させる。 講演テーマ：「安全を創る ～JR東日本の取り組みを例に～」 講師：佐藤 寿 様 (JR東日本パブリシティ・ヘルス GEC事業本部副本部長)
	60分程度	事故再現 今年度 西日本管内で発生した重篤な人身事故の再現と検証により、事故要因の理解を深める。 (昨年度の九州・沖縄管内で発生した事故についても再配信) 又、業務中や通勤時の類似事故の事例を紹介し、社員一人ひとりが事故を自分事として考え、日々安全確保に向け行動するための契機とする。 ① 高所作業車からの墜落 ② 高所作業車による巻きこまれ ③ 滑って転倒事故
		危険体感訓練 高所作業を中心に今年度起こった事故を踏まえ、危険体感訓練の模様を視聴する事により危険への感受性を高めてもらう。 ① 梯子・脚立の転倒・墜落等 ② 感電・短絡体験等 (1/6(木)中電工様安全実習棟での研修模様を放映)
	5分程度	閉会式 ◆代表者による「安全唱和」

図2 大会プログラム

2. あいさつ

冒頭、NTT西日本九州支店梶原支店長（写真1）より、「2年間続くコロナの中で、感染拡大に本当に気をつけていただきながら、お客様対応を丁寧に行っていただきありがとうございます。台風、豪雨やシステムトラブル等もご協力していただきありがとうございます。」

皆様へ安全について私のお願いをお伝えします。1つ目は、工事前のチェック確認についてです。安全確認の際は、年齢、上司、階級を気にせずフラットにしてください。先輩やベテランには言いにくいとは思いますが、そこは是非乗り越え、率直なコミュニケーションを取りつつ安全確認の徹底と安全な作業を実施してください。2つ目は、危ないと思ったら止めてください。そして止めたことを是非皆様は褒めてください。そして、改めて作業環境や機材等を十分に整えた上で改めて臨んでください。我々NTT西日本が皆様にお願ひしたいのは安全です。作業の優先はその次です。今後はずっと安全な日々が続けられるよう宜しくお願いします。」とごあいさつがありました。

引き続き、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会九州支部熊本支部長（写真2）より、「NTT西日本管内でも今年度重大な人身事故等が数多く発生しており、死亡事故が2件発生するという非常に重大な状況にあります。また九州管内においても人身事故が2件発生しており、日頃から皆様には、作業中の安全については十分注意していると思いますが、今一度安全について取り組んでください。まだコロナの感染が続いている状況ですが、日頃から皆様1人ひとりが安全に注意しながら、事故防止に努めていただいているこ

とは非常に感謝しています。ただ、事故がまだ撲滅できていないという状況にありますので、改めて事故撲滅・安全第一を認識してください。1人ひとりが改めて自分自身の作業を見つめるきっかけになり、職場の中での安全意識がさらに浸透するようにお願いします。」とごあいさつがありました。

3. 安全講話

JR東日本パーソナルサービス 常務取締役 GEC事業本部副本部長の佐藤 寿先生に、『安全を創る～JR東日本の取り組みを例に～』と題して、JR東日本が取り組んでいる、安全に対する教育や考え方についてご講演をいただきました（写真3）。

4. 事故再現

今年度発生した事故や、ヒヤリハット事例について再現するとともに、原因および対策映像等から、再発防止を呼び掛けるとともに、同様の事故は、身近な職場や作業等でも起こりうる事例について紹介し、1人ひとりが自分事として考え、行動することの必要性を確認しました。

【高所作業車からの墜落】

構内柱への配線作業中に、高所作業車の一部が樹木に引っかかり、ブーム操作をして外れた反動で、作業員がバケットから放り出されて墜落した死亡事故の再現映像により、高所作業の危険性と、事故原因およびバケット操作の正しい手順を紹介しました（写真4・5）。

【高所作業車による巻き込まれ】

開通工事に伴う配線点にて、接続するため高所作業車を移動させようとバックした際、高所作業車の後ろ



写真1 梶原支店長 あいさつ



写真2 熊本支部長 あいさつ



写真3 佐藤 寿先生 講話



写真4 事故原因



写真5 正しい手順

で誘導していた交通誘導員を誤って轢いた死亡事故の再現映像により、高所作業車のバックの危険性と、事故原因およびバックの走行・誘導方法の正しい手順を紹介しました(写真6・7)。

【普通車による巻き込まれ】

普通車を運転して交差点を左折した際、並走してきた自転車を巻き込みそうになったヒヤリハットについて、死角や思い込み等の事故につながる注意すべきポイントと正しい手

順を紹介しました(写真8・9)。

【滑って転ぶ】

ポケットに手を入れ、歩きスマホによる階段からの転落(写真10)、濡れた傘の屋内への持ち込みにより、濡れた廊下で滑っての転倒(写真11)、日頃の行動や、身近な場所でも起こりうる事故について、スマホ歩きの厳禁、傘立ての利用等の正しい手順(写真12)を確認しました。

5. 危険体感訓練の様相

【脚立の開き・横倒れ体験】

脚立の開き・横倒れ体験は、体験者が脚立に上り、脚立の開き倒れ、および横倒れの状況を作ることで、脚立が不意に倒れる際の恐怖感を体験した映像により、脚立の開き止め金具や作業環境についての注意点等を紹介しました(写真13)。

【梯子の横・縦すべり体験】

梯子の横・縦すべり体験は、体験者が梯子に昇り、梯子の横滑りおよび縦すべりの状況を作ることで、梯子が不意に滑る際の恐怖感を体験した映像により、梯子の立て掛け角度(約75度)や作業環境についての注意点等を紹介しました(写真14)。

体験者感想:脚立が想定外で開くと体のバランスが取れなかったりするので、安全に使用しないと危険だということが分かりました。梯子を立て掛ける際は、倒れない安全な場所に養生して作業しようと思いました(写真15)。

【ぶら下がり体験】

ぶら下がり体験は、墜落制止用器



写真6 事故原因



写真7 正しい手順



写真8 事故原因



写真9 正しい手順



写真10 歩きスマホによる転落



写真11 濡れた廊下での転倒



写真12 正しい手順



写真13 脚立の開き・横倒れ体験



写真14 梯子の横・縦すべり体験



写真15 体験者感想

具を装着して、一本吊り状態でのぶら下がりを実施し、胴ベルトとフルハーネスの違いや、装着位置の違い、締め方の強弱による腹部への圧迫感の違いを体験した映像により、腹部・内臓圧迫からの呼吸困難や、内臓損傷の恐れや正しい装着方法を紹介しました（写真16・17）。

体験者感想：胴ベルトよりフルハーネスが安定性に優れており、体への負担も少なかったです。柱上作業や高所作業車での作業があるので、フルハーネスのサイズを合わせたものを着用して作業したいと思います（写真18）。

【墜落体験】

柱の高さ約1mの位置から後ろ向きに転落することで、不意に落下する際の恐怖感や、地表衝突時の衝撃を体験し、映像により、ワークポジ

ショニング器具の注意点等を紹介しました（写真19）。

体験者感想：低い位置から身構えて墜落したが、結構な衝撃を受けました。もし高い位置から身構えていない状態で墜落したと考えるとゾッとしました。ロープのフックの目視・指差し確認が大事だと思いました（写真20）。

【低圧感電体験】

低圧感電体験は、乾湿両状態の指を受電部に触れ、電圧を変えながら感覚の違いを指先から認識し、不注意や装具不良時等の感電への違いを体験した映像により、通電経路・電流・時間で、心室細動・呼吸困難で心臓が止まる恐れや、保護手袋等の正しい使用方法を紹介しました（写真21）。

体験者感想：感電する機会が今まで

なかったもので、感電する恐ろしさを知ることができて良かった。40Vの衝撃を体感して高圧設備等の作業は、もっと大きな衝撃が加わると思う。現場に伝えていき、安全作業に努めてもらうようにする（写真22）。

【低圧計器短絡再現】

短絡させた計器の前に人形を立て、短絡（ショート）に伴うアーク発生状況を体験した映像により、停電や作業位置（計器の正面に立たない）、道具の注意点等を紹介しました（写真23）。

体験者感想1：研修のビデオ等で短絡の事故を見て怖いな、と思っていたが、実際に体験すると熱や音でビックリして改めて危ないと感じた（写真24）。

体験者感想2：一般家庭やオフィスビルの中で作業することが多く、機



写真16 ぶら下がり体験（胴ベルト）



写真17 ぶら下がり体験（フルハーネス）



写真18 体験者感想



写真19 墜落体験



写真20 体験者感想

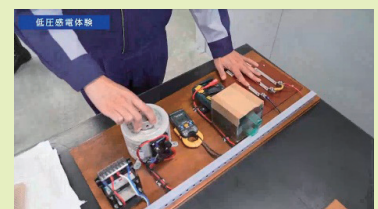


写真21 低圧感電体験



写真22 体験者感想



写真23 低圧感電体験

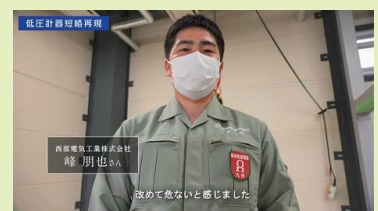


写真24 体験者感想



写真25 体験者感想

器に近づくことが非常に多いので、誤って触れてしまうことがある。今後、より注意深く手元の確認と、急がず焦らず基本作業を徹底して作業していこうと思いました（写真25）。

【低圧充電線路短絡体験】

充電線をペンチで切断し、短絡（ショート）に伴うアークの状況を体験した映像により、危険性や正しい作業要領（検電・一本ずつ切断・絶



写真26 低圧充電線路短絡体験

縁テープ)を紹介しました(写真26)。
体験者感想：自分で切るタイミングで短絡が発生することが分かっていても、音・火花・光におどろきました。高所作業や、不安定な体勢の時に体感すると非常に怖いと感じました（写真27）。

6. 閉会

NTT九州カンパニー代表 加藤社員と、情報通信エンジニアリング

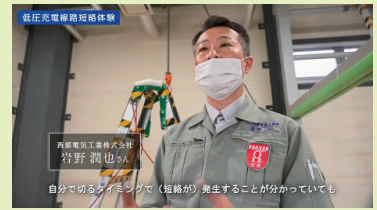


写真27 体験者感想



写真28 統一スローガンの唱和

協会九州支部代表 山本社員の2人のリードにより、統一スローガンを唱和し大会を終了しました（写真28）。